

祝

芝浦工業大学体育会ヨット部 創立 50 周年記念パーティー



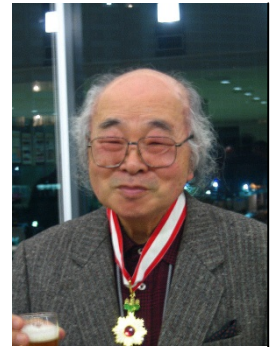
式次第

- 一. 開式の言葉
前田 佳邦
- 二. 式辞
石川 洋美
- 三. 来賓紹介
- 四. 乾杯
秋山 知彦
- 五. 歓談
- 六. 校歌斉唱
- 七. 閉式の言葉
久保田 誠一郎
- 八. 記念撮影

平成二十六年五月十七日(土)
帝國ホテルにて

芝浦工業大学体育会ヨット部初代部長
芝浦工業大学名誉理事長
芝浦工業大学工学部建築学科元教授

石川 洋美



「先生、ヨットを買いだいたいからお金を貸してください！」

この一言がヨット部創立のきっかけでした。たった一つの小さな舟を囲む「楽しみの輪、ヨット同好会」の出発です。やがて、この輪は「楽しみつつも力を尽くして闘う競技チーム、ヨット部」へと成長しました。

こうして 50 年、ヨット部創立 50 周年だそうでおめでとう！よく頑張った！

50 年、それなりに「伝統」が出来たと思います。伝統とは「勝利の引継ぎ」ではなく、「心の引継ぎ」です。「闘う心」、「楽しむ心」、何より大切なのは「仲間との絆」です。その絆が擦り合わさって「チーム力」が生まれます。小さな舟から出発した意気込みを大切に、くじけそうになった時の頑張りを忘れずに！常に前を、上を目指して進んでください。それが伝統を引き継ぎ、新しい伝統を創るチーム力になります。

青い大空のどこかで、100 周年を待っています！

芝浦工業大学体育会ヨット部第二代部長
芝浦工業大学工学部電気工学科元教授

金子 誠司



ヨット部創部 50 周年を迎えられましたこと心よりお祝い申し上げます。私が部長を引き受けたのは、たまたま 1974 年に第一級小型船舶操縦士の免許を取得していたため、それまで部長をして頂いた石川教授が理事長になられたため 1991 年～2002 年まで事故者も無く勤めた。その間、船舶操縦に必要な第三級海上特殊無線技士も取得した。

合宿など参加して学生と寝食をともにし、学生の活躍ぶりを見てきた。安全のためレスキュー艇を購入したりしたが、その間、部員が 2 名とか少なくなり、部の成立が危ぶまれるようになってきた時代もあったが OB、現役の活躍ぶりを見て大学側の協力もさることながら今や 20・30 名と活気が出てきているが、今度は艇の不足による一度に全員が練習できないといううれしような悩みも出てきた。長年の練習の結果レースに一艇でも出て入賞できるようになった。

他の部と違って、学外に出た合宿しながら練習に励み学業においても優秀な成績を残した OB 達は部活での先輩後輩の絆を生かしながら多くの企業で活躍している。

最後に、今後も引き続きさらに練習を重ねるとともに伝統を磨き上げ発展し続けることを祈ります。

芝浦工業大学体育会ヨット部現部長
芝浦工業大学経営企画部経営戦略課長
東洋大学体育会ヨット部 OB

秋山 知彦



芝浦工業大学体育会ヨット部が創立 50 周年をめでたく迎えるにあたり、心からお祝い申し上げます。また、これまで創部依頼、ヨット部の活動にご理解、ご支援をいただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

一艇のディンギーからスタートしたヨット部も、今では卒業生数は 200 名を超え、現役も 20 名を超える大所帯となりました。卒業生の活躍は各方面から聞こえ、毎年全国各地で行われる OB 支部会では、ヨット部の合宿生活というあの独特な世界を経験した者だけが知る共通の勢いや底力を今もなお感じさせられています。

今年、創立 50 周年という記念の年に、また一人仲間が増えることになりました。その仲間は 470 艇セールナンバー 4519 です。費用の面から、役員会にて購入を一度断念しましたが、さすがは皆様の後輩、資金集めに奔走し、夢を現実に変えてくれました。この頑張りや粘り強さは今後 80 周年、100 周年へと絶えず続いていくことと思います。

創立 50 周年を迎えるに当たり、その歴史の重さ感じるとともに、未来への希望を新たに作る良き機会になることを期待しています。

芝浦工業大学体育会ヨット部元監督
芝浦工業大学体育会ヨット部元主将
芝浦工業大学体育会ヨット部コーチ

大蔭 雅彦



芝浦工業大学工業高等学校を卒業し、そのまま大学へと思いきや、出来が悪く夜間部への入学。入学して、大学校舎のトイレで江の島で顔なじみの金指先輩とばったりお会いしたのが始まりでした。一年で昼間部の金属工学科に転入し、当時は同好会であった諸先輩にお世話になりつつ、小笠原先輩に“体育会の部”にしましょうと進言し、石川顧問先生にも認可を戴き晴れて体育会ヨット部の誕生となりました。後の金子顧問先生にもご尽力いただき、紆余曲折がありましたものの、大過なく創立 50 周年を迎えられます事を、先輩・同期・後輩の方々と素直に喜びたい。

みなさんの努力の積み重ね、更には OB の方々から幾多のご厚意をお寄せいただき、今のヨット部は姿かたちは勿論のこと、立派な学生の課外活動の場を築くことが出来つつあります。

その一助にと、老骨にむち打ち昨年より時間を造り、現役の皆さんと、練習・理論習得の一助に参加させてもらっております。その実費経費を OB 会から捻出戴いており、敢て申し上げれば同期の桑原さん・OB の石川さんからのご寄附と現役学生たちの学校との折衝や資金集めの賜物として、オリンピックのコーチも使用しているレスキュー艇を昨年購入することが出来たことは、練習内容の飛躍的な向上と安全活動確保に絶大なる効果を見せておりますし、今年は 470 級の新艇購入を果たすことが出来ております。

さあ、舞台を整えて戴きました。

益々の課外活動に向けもう暫く芝浦工業大学体育会ヨット部に貢献させていただきます。

芝浦工業大学体育会ヨット部前 OB 会長
芝浦工業大学体育会ヨット部元監督

森 章



運動部の歴史というものは、その年代年代においての試合の成績で色々と表わされて来ています。当クラブも、同好会から発足して体育会へと発展した歴史があります。遊び感覚から、勝負への飽くなき挑戦へ。殆どの大学で、ヨットを操縦するのが大学一年生からという、大学の運動部としては珍しい体制です。横一線からのスタートで、チャンスは全ての学生に与えられています。では、何処で差が付くのか？これが伝統です。特にヨットを走らせるという技術は伝統の教え以外に考えられません。

右も左も分からない若者が、短い期間に技術をマスターするには何に頼ったらー？先輩に？同僚に？コーチに？今、走らせる伝統作りに大蔭雅彦氏が奔走しております。OB の協力が大きな支えとなりますので、引き続き、援助をよろしく願いいたします。

また、我がヨット部の特筆する出来事は同好会発足時の顧問、石川洋美先生が本校の理事長にまで上り詰められたことです。こんな恵まれた環境の運動部はヨット部だけです。我がヨット部も、いつか頂点へ上り詰める日が来ることを夢見ております。そして、大学生活の経験はその後の人生に大きな影響を及ぼすという事を、現役の学生に伝授するのも我々 OB の役目です。OB の皆様の社会での益々の活躍を祈念いたします。

芝浦工業大学体育会ヨット部 OB 会長
関東学生ヨット連盟理事

柴田 真利



我らがヨット部が 50 周年を迎えました。数々のピンチを乗り越え、今現役学生は 18 名+1 年生そして所有艇は、昨年進水したばかりのレスキュー芝翔と 470×5 艇とスナイプ×2 艇とまさに元気一杯活動をしています。

また OB 会も年 1 回の春の旅行、年 2 回春と秋に行われるゴルフ OB 戦、年 1 回 OB 会総会と同時開催をしているヨット OB 戦とこちらも元気印で活動をしています。

現役時代、何度もやめたかったヨット部でしたが、50 周年を迎えたこの瞬間に OB 会長務めていることに感謝と感激が胸一杯であります。今の自分があるのはまさにこのヨット部のおかげなのです。100 周年に向け、今後とも OB 会、現役部員、大学とともに荒波そして長い航海を乗り越えましょう。



本日は大勢の皆様にご参加頂き誠に有難うございます。大いに交流して頂き、盛会となりますことを期待しております。

思い返せば、私がヨット部に入部したのが 30 周年の年でした。あれからはや 20 年…

中学・高校の 6 年間で岐阜の山奥で寮生活を行っていた私は当時「海」に非常に大きな憧れを抱いておりました。大学に入ったら何かしら海にまつわるクラブに入ろうと考えていたところ、大学登校初日に東大宮校舎 3 号館の階段を降りますと某先輩に胸ぐらを掴まれるように引張って行かれたのがヨット部の勧誘ブースで、そのまま入部と相成りました。

思い返せばその時の出会いで私の人生は大きく狂い、いや、大きく変わり今ここに居ります。厳しい運営状態で辛酸を舐めた下級生時代に、絶対に俺たちは両クラスでインカレ決勝に行つてやるんだと同期の仲間たちと誓い合い、その後目標を達成、関東インカレで総合 11 位という成績を残せた時の喜びを今でも懐かしく思います。

このことは部員達の努力もさることながら、多くの先輩達に支えられてこそなし得ることができたのだと強く実感したことから、引退後も部との関わりを続け、OB 会運営に携わり卒業後数年で監督に就任。これまで多くの後輩たちと苦楽を共にしてきました。

しかし、栄枯盛衰は世の常、一般的な体育会離れもあってか部員が減少傾向に陥り、あわや部員ゼロに？という危機にも直面しました。そのどん底からまた這い上がり、今この記念すべき 50 周年を大勢の部員と共に迎えられることを非常に嬉しく思います。これからもこの魂を絶やすことなく時代を重ねて欲しいと切に願います。

今後もこのヨット部の益々の繁栄と、OB 諸氏並びにご列席の皆様のご隆盛を心よりお祈り申し上げます。



現在主将をやらせていただいております。四年生の新井です。このたび 50 周年の節目に主将を務めることが出来、本当に幸運なことだと感じております。現在部員は四年 7 人、三年 6 人、二年 5 人の 18 人です。一年生においては只今勧誘中で、夏までに部員 30 人を目指しています。

大会成績はここ数年順位を上げ、昨年の 470 協会のレースでは初の全日本大会への出場を果たしました。この様な結果を得ることが出来たのはひとえに我々学生の熱意を受け止め、答えて下さった OB の方々の協力があってからだと思います。これ程までに学生の意志を尊重し、答えて下さる組織は他にないと思います。私はこの部活に所属し本当に良かったと思うと同時に後輩に繋げていかなければと強く感じました。

我々四年生は今年の秋の大会で全日本出場を果たすことを宣言し活動して参りました。新レスキュー・新艇がそろった今、私達はその宣言を実行すべく練習に励んでおります。この 50 周年のという年をスタートに新たな強豪校としての芝浦工大ヨット部を築いて行きたいと思っております。

最後に、この部を築いてくださった OB の皆様、この部を支えてきてくださった歴代部長・監督・関係者の方々ありがとうございました。これからも変わらぬご支援の程よろしくお願い致します。

芝浦工業大学体育会ヨット部 部訓

1. 海と船、そしてチームを愛すること
2. 絆を信じること
3. 常に前へ、さらにその上へ
4. 年上に尊敬を、年下に思いやりを
5. 時間は有限、大切に

2014年5月17日 制定

■芝浦工業大学体育会ヨット部 50 周年パーティー実行委員会■

秋山 知彦、大蔭 雅彦、森 章、柴田 真利、石川 一義、平澤 裕愛
久保田 誠一郎、前田 佳邦、内山 哲夫、久保田 梢、竹内 州、新井 浩樹